



History

キラリを再発見

3基の横穴が山林中に残存

中尾横穴群は、新野地区中尾の御前崎市と菊川市の境となっている丘陵から東へ延びた、山林の南側斜面に立地しています。発見された時期は分かりませんが、昭和48年1月に作成された「静岡県埋蔵文化財包地調査カード」には、「神ノ谷横穴」という名称で、すでに記入されていることから、かなり早い時期からその存在が判明していたと考えられます。

急傾斜地の山林中に1基が開口しており、その西側にさらに2基の存在が推定されることから、3基以上の横穴が残っていると思われます。開口している1号墳の玄室の平面は円形で、断面はドーム状です。横穴の規模は、全長約3.4m、玄室長約2.1m、玄室幅2.37m、玄室天井高約1.58mです。発掘調査をしていないため副葬品などについては不明です。

※玄室とは、遺体を安置する部屋のことです。

Atomic

暮らしと原子力

人と環境を守る確かな規制へ

原子力の安全規制を一元化する「原子力規制委員会」とその事務局となる「原子力規制庁」が9月19日に発足し、委員長には日本原子力学会会長や元日本原子力研究所副理事長を歴任した田中俊一氏が就任しました。

同委員会は、環境省の外局に設置された組織で、原子力発電所の安全基準づくりや安全審査に取り組むほか、緊急時事故対応の権限が与えられています。

【規制組織・制度改正のポイント】

「規制」と「利用」の分離

原子力の利用を推進する側の経済産業省から、安全規制を担う原子力安全・保安院を分離し、原子力安全委員会などと統合し、環境省の外局に独立性の高い行政機関として設置されました。

「規制」の一元化

原子力安全規制、核物質のセキュリティ、核不拡散の保障措置、放射線モニタリングなど規制が一元化されます。

原子力規制の転換

福島第一原子力発電所事故の教訓から、重大事故対策の強化、最新の知見に基づく原子力安全規制の実施など原子力規制が強化されます。

透明性の高い情報公開

情報公開法の「不開示情報」にあたらぬ限り、行政文書や同委員会で行われる会議、原子力事業者との規制に関する議論などは原則として公開されます。

原子力防災体制の強化

内閣に原子力防災会議を設置し、緊急時に備えて平時から政府全体で原子力防災対策を推進する体制が整備されます。